



## 目 次

巻頭言 .....	附属図書館長 可児 一孝.....	2
著作権、ご存知ですか？.....		3
電子ジャーナルレポート.....		4・5
新規オンラインサービスの開始.....		5
図書館探訪（最終回） 滋賀医科大学附属図書館.....		6・7
図書館利用講習会（報告）.....		7
本学関係者寄贈図書.....		8
編集後記.....		8



## 変わりゆく図書館～ターニングポイント～

附属図書館長 可児 一孝



インターネットの普及を初めとする情報化の波のなかで、図書館の存在意義が大きく変わろうとしています。図書を中心に資料を収集し、整理・分類して閲覧者に提供するというのが図書館の使命でした。インターネットの進歩とともに、あらゆる情報が非常に短時間で世界中に伝達するようになりました。わざわざ図書館に出かけて行って、図書や雑誌を調べたり、文献を検索したりしなくても、インターネットにつながったコンピュータさえあればいつでもどこでも情報を入手できる、これは大きな進歩です。

ここに、問題が生じています。映像や音楽でも同様ですが、デジタル情報になったものは、全く劣化することなくコピーを作ることができます。このため、著作権をどういう形で保護するか、また、出版社の利益をどのように確保するかという問題です。

インターネット自体は本来無料のものですが、情報は有料化できます。最近の著明な雑誌はほとんど冊子体とデジタル化されたOnline Journalとが並列に存在します。Online Journalを契約しようすると、冊子体の購読を強制され、冊子体料金に割り増し料を払って初めて利用できるというのが普通です。そして、契約が切れると、バックナンバーも見ることができなくなります。料金の問題もあります。少数の出版社がOnline Journalを提供している関係で、料金は出版社の言いなりになっています。しかも年々数%の値上げです。2004年度までは、文部科学省からOnline Journal購読のための措置が見込まれますが、その後はなくなる場合も考えられます。数百万円のOnline Journal料をどうして捻出するか、これは大問題です。

いろいろな問題点がありますが、利用者の利益が守られた形の情報化を模索していかなければならないのです。医学情報に関して、古い大学の巨大な図書館のような組織が良いとは思いません。コンピュータにおいて、大型のメインフレームからネットワークでつながる小さなコンピュータ群に変わって能率化されたように、図書館で取り扱う情報でも、データが分散される方式が望ましいと思います。インターネットがもっと高速化し、各所で発行される論文などを自分のコンピュータの記憶装置にあるもののようにアクセスできる。それがリーズナブルな料金でできる。図書館のハードは縮小され、全世界からの情報を整理して利用者を助けるというソフトの業務に専念する。このような展開があっても良いと思っています。

大学の法人化にあたり、広報誌を整理し統合しようということになりました。図書館発行の「さざなみ」も次号から「勢多だより」に統合されることになりました。ホームページからのアクセスもできます。ご期待願います。

(かに かずたか)

# 著作権、ご存知ですか？

みなさんが普段利用されている図書館資料のほとんどは、著作権のある著作物です。著作権とは、研究論文や小説、音楽など(=著作物)を「無断で利用されない」ための権利です。そのため図書館で資料を複写する際も、著作権法で定められた範囲内で行わなければなりません。著作権は、著作物を創作した時点で自動的に権利が発生し、著作者の死後50年まで保護されるのが原則です。図書館資料の複写に関しては、著作権法で次のように定められています。

## 図書館等における複製 ～著作権法より抜粋～

第31条 図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その他の施設で政令で定めるもの(以下この条において「図書館等」という。)においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料(以下この条において「図書館資料」という。)を用いて著作物を複製することができる。

1. 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分(発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあつては、その全部)の複製物を1人につき1部提供する場合
2. 図書館資料の保存のため必要がある場合
3. 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料の複製物を提供する場合

つまり...

- \* 複写できるのは、図書館の資料のみです。
- \* 複写の目的は、利用者個人の調査・研究のために限ります。
- \* 複写の範囲は、著作物の全部ではなく一部分に限ります。
- \* 雑誌および定期刊行物の最新号は複写できません。
- \* 複写できる部数は、1人につき1部のみです。



講義ノートやサークルのチラシなど、図書館の資料でないものは複写できません！

1人で同じ論文や資料を複数コピーすることも禁止されています。

著作物の半分以上の複写は、著作権者の許諾を必要とします。

また、データベースや電子ジャーナルを利用する場合は、特に以下のことを注意してください。

- \* 大量ダウンロードは一般的に禁止されています。

(違反すると、出版社より大学全体で利用停止にされます。)

- \* 電子媒体で得た論文をメールで転送することもできません。

(ただし、出版社との契約によりメール送信可能な場合もあります。)

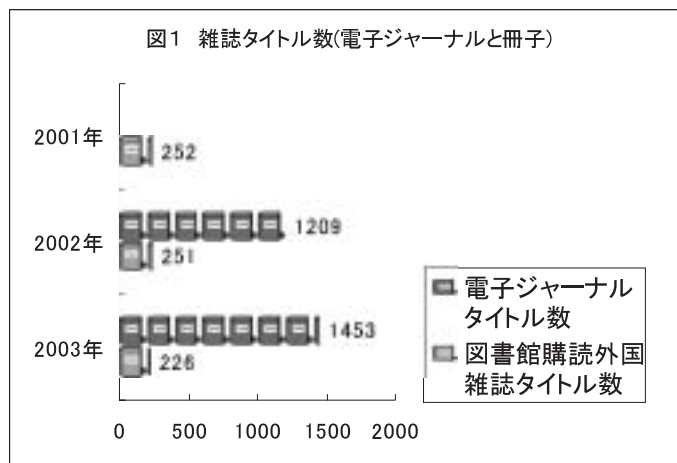


規則に従って、正しくご利用ください。

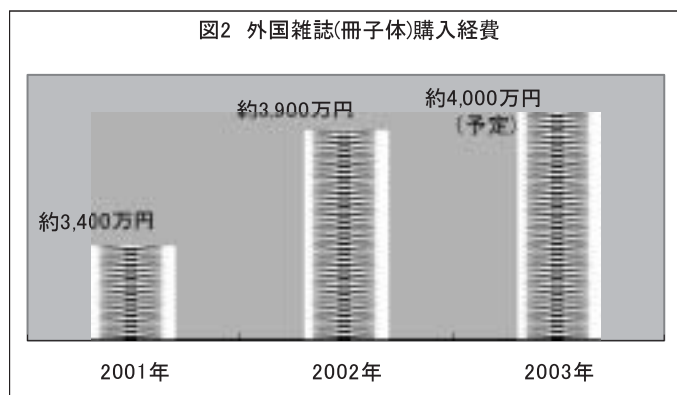
# 電子ジャーナルレポート

平成14年度に電子ジャーナル導入経費が本学にも配分されたことにより、電子ジャーナルが導入され、2年が経過しようとしています。そこで統計を元に、本学での現在の電子ジャーナルの状況を紹介したいと思います。

## 利用できる雑誌タイトル数と雑誌購入経費



2002年度に有料電子ジャーナルが導入されたことで、利用できる電子ジャーナルが大幅に増えました(図1)。一方で冊子については、2002年に価格の高騰と円安により外国雑誌購入経費の大幅増加をよぎなくされました。翌2003年に25タイトルの購入を中止しましたが、それを上回る雑誌の価格上昇により、2003年の購入経費は2002年より増加するという結果になりました(図1・2)。



ここで、電子ジャーナルと冊子で重複しているタイトルもあることから、重複した冊子を購入中止として経費を削減したいところですが、電子ジャーナルを購入するための条件として、「冊子のキャンセルをしないこと」とする出版社も多く、電子ジャーナルと冊子両方の経費がかかり、かえって経費がかさむという状況になっています。

今後、さらに雑誌価格が上昇することが予想されます。この「雑誌購読経費の問題」

に対して、これまでに本学では講座より雑誌を寄贈していただいたり、購入雑誌のタイトル数を減らしたりすることで、経費を抑えようとしてきましたが、一図書館での努力だけで解決できる問題というわけではありません。そこで、こうした大手商業出版社の価格高騰に対して、欧米では大学図書館を中心にしてSPARC(Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)という組織を創設し、「大手商業出版社の高額雑誌に対抗する低価格の学術雑誌の刊行」や、「BioMed Centralのようなオープンアクセス(無料でアクセスでき、アーカイブも保証する)の雑誌の発行の支援」など、大手商業出版社による市場の寡占状況に対して、学術情報の流通を研究者自身で行うという根本的な変革をめざしています。また日本でも平成15年度より国際学術情報流通基盤整備事業(通称SPARC/JAPAN)が開始され、まずは国内学協会の英文誌の電子化支援が進められています。

利用の状況

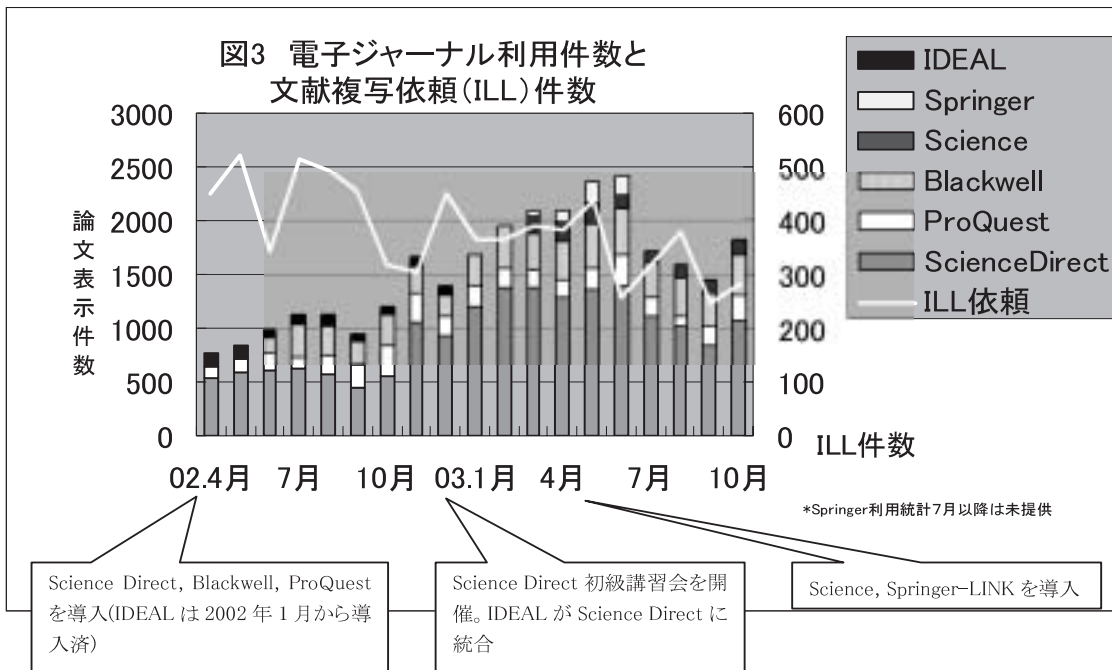


図3は電子ジャーナルの利用頻度と文献複写依頼件数をグラフで表したものです。月により利用のばらつきがあるものの、電子ジャーナルについては増加傾向にあり、前年度に比べて概ね1.5倍の利用の伸びが見られます。一方、学外図書館への文献複写の依頼件数は依然需要は高いものの、ゆるやかにではありますが減少の傾向が見られます。電子ジャーナルを導入して2年が経過しましたが、利用もかなり定着し、なお一層の利用の伸びが予想されます。今後、利用講習会等をより充実したものに、また充分利用していらっしゃる方々への普及を図るとともに、附属図書館のホームページを学術情報のポータルサイトとしてより便利なものに整備して、利用者の皆様のサポートに力を入れていきたいと思ひます。

## 新規オンラインサービスの開始

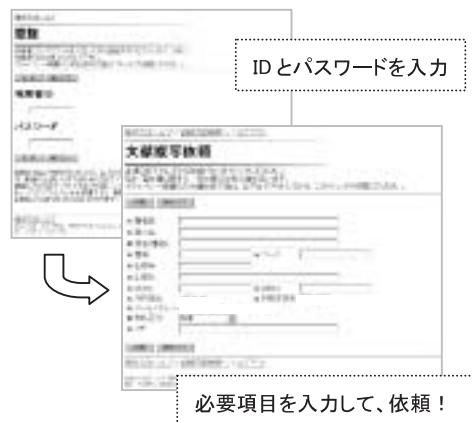
平成16年4月1日から附属図書館のホームページで下記のオンラインサービスを開始します。これに先立ち、3月から試験運用を行いますので、どうぞご利用ください。なお当面は、教職員・院生を対象としております。このサービスは利用の際ユーザ認証を行いますので、事前の登録が必要です。図書館カウンターで申し込みの受付を行っています。

### 文献複写等の依頼がWebがブラウザで可能になります！

⇒ Webブラウザから文献複写等の依頼ができ、依頼した文献複写等が依頼中なのか、発送済なのかなど、自分で確認できます。

### ご自分の貸出状況が確認できます！

⇒ 自分の借りている資料が何なのか、返却日は何日なのかを確認できます。





# ～ 滋賀医科大学附属図書館 ～



JR琵琶湖線瀬田駅からバスで走ること15分、自然に恵まれた滋賀医科大学のキャンパスが現れます。創立29年のこの大学で、様々な人が利用できるこの図書館は、二階建てでマルチメディアセンターも併設されています。



入り口を入ると、左手には最新雑誌や新聞などが置かれているブラウジングコーナーがあり憩いの場となっています。図書館の1階は英文雑誌や参考図書、2階は専門書や文学小説など様々な本と和文雑誌が置かれています。



また、自習室も完備されており、学生の試験勉強には欠かすことのない場所となっています。試験期間には、学生が溢れかえり、専門書も借りつくされてしまいます。文献の取り寄せも行っており、一日でも早くお届けできるように職員の方が奔走しています。(^^)



図書館のホームページは学外からも閲覧することが出来るので、興味のある方は一度ご覧になってください。



滋賀医科大学附属図書館ホームページ  
<http://www.shiga-med.ac.jp/library/>



(執筆者)  
医学科2年生 市川 麻理  
医学科2年生 伊藤 友香



## ～ 滋賀医科大学附属図書館 ～

つづき

本学図書館の特徴のひとつに時間外特別利用があります。学生は、一部の学年の許可された人に利用が限られます。夜間の図書館の利用傾向は4月、5月はそれほど多くないのですが、8月ごろより、国家試験を控えた6年生の利用が目立つようになります。また、各学年のテスト期間にも利用が集中します。利用者に感想を聞いてみたところ、概ね利用マナーもよく、快適に利用しているとのことでしたが、夜間も空調を稼動してほしいとの意見が多くありました。利用マナーは以前に比べて良くなっているとの感想も頂きました。各学年への特別利用の経緯や、マナー違反者への直接の注意といった啓蒙のおかげかと思えます。



以前は、利用できない学年の心無い人たちによる利用マナーの悪さが特に目立ちましたが、現在、図書館の入口が改修されてからはそのような例は激減しました。しかしながら、依然として携帯電話の使用（主にメールのやり取り）や自由閲覧室等でお茶やお菓子の飲食の跡が多々見受けられます。また、6年生による場所取り行為が8月ごろから卒業試験終了まで目立ちます。更なる利用マナーの向上を期待します。

以前、図書館は全ての学生が24時間利用できる環境にありましたが、あまりにもモラルのない利用者がいたために、学生は利用できないようになってしまった時期がありました。その後、各学年からの強い要望により、利用マナーを守ることで一部の学生にのみ利用が許可された経緯がありますが、そのことを知る学生も減ってしまい、利用マナーの悪化が懸念されます。将来の医療従事者である学生が高いモラルをもたれることを希望します。



(執筆者)  
医学科6年生 平松 範彦

### 附属図書館利用講習会(報告) (平成15年8月～平成16年1月)

- 10月10日 Ovid社オンラインデータベース(MEDLINE/EBMR/CINAHL)講習会
- 10月20日 看護学科第3学年文献検索オリエンテーション
- 11月7日 看護学科第3学年文献検索オリエンテーション
- 1月9日 看護学科第3学年文献検索オリエンテーション

#### MEDLINE、PubMed、CINAHL、医中誌Web、電子ジャーナル・・・

講習会に行きたいけれど時間があわなくて行けない、大人数で聞くよりも少人数で、あるいは1対1で説明を聞きたい、といった方はいらっしゃいますか？図書館ではできる限り利用者みなさんのご希望に添える形で講習会を開催したいと考えております。講座での講習会やグループ単位での説明会など、どしどしご要望をお寄せください！

附属図書館 情報サービス係 内線 2080  
e-mail hqjouser@belle.shiga-med.ac.jp

## 寄贈図書紹介

図書館にご恵贈いただきありがとうございます。この他、雑誌も多数ご寄贈いただいております。  
今後とも図書館資料の充実のため、著書を刊行されました折には、  
ぜひ図書館にご恵贈くださいますようお願いいたします。

日本糖尿病療養指導士受験 ガイドブック2003	メディカルビュー社	2003	吉川隆一学長	部分執筆
公衆栄養学 改訂第4版 (栄養・健康科学シリーズ)	南江堂	2000	上島弘嗣教授 (福祉保健)	部分執筆
実地医家のための糖尿病合併症 診断・治療ハンドブック	エルゼビア・ジャパン	2003	繁田幸男名誉教授	監 修
より良いインフォームド・ コンセント(IC)のために	日本内科学会	2003	内科学第三講座 他	
高尿酸血症・痛風の治療 ガイドライン第1版	治療ガイドライン 作成委員会	2002	内科学第三講座	
内科学Ⅰ 第2版	文光堂	2003	馬場忠雄副学長	
内科学Ⅱ 第2版	文光堂	2003	馬場忠雄副学長	
エッセンシャル法医学 第3版	医歯薬出版	1993	法医学講座	

## 訂 正

さざなみNo52 p.2の記事で、小森教授の所属の表記に誤りがありましたので、以下の通り、訂正しお詫び申し上げます。

誤) 生命学講座教授      正) 生命科学講座生命情報学教授

## 編集後記

巻頭言でもふれましたが、本学の広報誌の統合により、附属図書館報「さざなみ」は今回のNo53をもって終刊となります。昭和53年(1978年)「Library News」のタイトルで創刊され、昭和57年(1982年)No10から誌名を「さざなみ」とあらため、皆様に附属図書館のニュースをお届けしてきました。永らくのご愛読ありがとうございました。今後は、附属図書館のホームページ(<http://www.shiga-med.ac.jp/library/index.html>)と学生向け広報誌「勢多だより」の中で附属図書館のお知らせを行いますので、どうぞご活用ください。

**滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.53 (最終号)**

2004年2月発行

編集・発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520 2192 大津市瀬田月輪町  
TEL:077 548 2077 FAX:077 543 9236 e-mail:hqtosyo@belle.shiga-med.ac.jp